

水力調査書 第一卷

第一章 緒言

産業發達ノ鍵關ハ低廉確實ナル動力ノ豐富ナル供給ニ在ルハ言フ俟タサル所ニシテ廉價ナル動力ノ源泉ハ結局水力ニ歸スヘキコトモ亦多言ヲ要セサル所ナリ。蓋シ水力ハ自然ノ動勢ニシテ其ノ資源ハ永久無盡ト稱ス可ク特ニ地勢急峻、降雨饒多ニシテ河川水力ノ豐富ナル本邦ニ在リテハ動力ノ資源ヲ水力ニ仰クハ自然ノ歸趨ト言ハサルヘカラス

本邦ニ於テ工業的ニ發電水力ノ利用ヲ企圖シタルハ明治二十四年京都府ノ琵琶湖疏水工事ヲ以テ嚆矢トスルモノニシテ本事業カ豫期以上ノ好成績ヲ舉クルヤ茲ニ水力電氣事業ハ漸ク世人ノ注意ヲ喚起シ全國各地ニ水力ノ利用ヲ計畫スルモノ増加シ來レリ。其ノ後電力遠送ニ關スル科學及技術ノ顯著ナル進歩ヲ見ルト共ニ明治四十年前後日露戰役後ノ經濟界好況ノ時代ニ際會スルヤ電氣事業ハ茲ニ急激ナル發達ヲ遂ケ我產業界ニ極メテ重要ナル位

置テ古ムルニ至レリ。然レトモ當時落成セル水力發電所ハ概ネ其ノ設計ノ基礎資料不完全ナルモノ多ク竣工ノ後ニ至リテ水量不足ノタメ發電力減退シ多大ノ資本ヲ投下セル水力事業ヲシテ經營上充分ナル能率ヲ舉クル能ハサラシムルノ事例少カラザリキ

茲ニ於テ遞信省ハ明治四十三年臨時發電水力調査局ヲ設置シ我國ニ於ケル發電水力ノ分布及之カ利用ノ方法並其ノ經濟上ノ價值ニ關シ詳密ナル實地調査ヲ行ヒ一ハ以テ發電水力ノ利用ヲ促進シテ一般産業ノ發達ニ資シ他ハ以テ企業者ニ對シ準據スヘキ正確ナル資料ヲ與ヘンコトヲ期シタリ。此ノ調査ハ初メ五箇年ノ豫定ヲ以テ著手セシモ大正二年六月財政ノ都合ニ因リ突然之ヲ中止スルノ已ムナキニ至レリ、而シテ其ノ調査ノ結果ハ電氣事業ニ對シ準據スヘキ規準ヲ與ヘ斯業ノ堅實ナル發達ヲ助成セシコト甚タ大ナルモノアリタレトモ然シ調査期間短ク充分ナル資料ヲ蒐集スルコト能ハサリシタメ眞ニ水力ノ經濟的開發ノ上ニハ遺憾尠少ナラザリキ

大正ノ初頭ニ當リ電氣事業ノ發展ハ益著シク特ニ送電ニ關スル技術ノ進歩顯著ナルモノアリ一ノ送電系統ト他ノ送電系統トヲ連結シ廣大ナル地域ニ互リテ一大送電網

ヲ形成シ或ハ一地方ノ渇水ニ依リ減退スル水力ヲ補フニ他地方ノ貯水池ヲ以テシ或ハ水力ノ不足時期ニ際シテハ工業地ノ火力機關ヲ豫備トスル等相互ニ有無相通スルコトヲ得ルニ至リタルノミナラス又一面ニ於テハ時勢ノ進運ニ伴ヒ諸種ノ工業用動力トシテ各方面ニ電力ヲ利用スルノ途開カレ殊ニ歐洲戰亂中電氣化學工業ノ勃興急激ナリシタメ最低廉ナル電力ヲ多量ニ供給スルノ必要ヲ生シ然モ是等ノ工業用電力ハ水力ノ増減ニ應シテ其ノ生産力ヲ調節シ得ルモノ多キニ至レリ。之ヲ以テ從來ノ如ク水力利用ノ規準ヲ渇水量ニ止ムルハ徒ニ渇水期以外ノ豐富ナル水量ヲ海洋ニ放流セシムルモノニシテ甚タ不經濟タルヲ免レサルカ故ニ近時水力電氣事業ノ計畫ニ當リテハ概ネ渇水時ニ數倍スル多量ノ水量ヲ以テ規準トシ其ノ利用能率ヲ増進スルト共ニ電力ノ生産費ヲ可及的低下セシムルハ國家經濟上最有利ナル方策トナルニ至リタリ

故ニ本省ニ於テハ曩ニ中止ノ已ムナキニ至レル水力調査事業ヲ復活シ電氣事業及一般工業ノ狀態ニ應シ四季ヲ通シテ水力ヲ精密ニ調査スルノ目的ヲ以テ大正初年ノ頃ヨリ本調査ノ實現ヲ企圖シ終ニ第四十議會ノ協贊ヲ經テ大正七年度以降十一年度ニ互ル五箇年ノ繼續事業トシテ

全國ノ各河川ニ就キ經濟的ニ使用シ得ヘキ水力地點ヲ精査シ其ノ利用シ得ヘキ落差及河川流量ニ關スル詳細ナル調査ヲ遂ケテ完全ナル水力原簿ヲ製シテ企業者ニ準據スヘキ正確ナル基礎資料ヲ供シ水力ノ經濟的利用及一般産業ノ發達ニ資セシムルコトヲ期シタリ

本調査事業ハ五箇年ノ歲月ト百四十餘萬圓ノ經費トヲ費シ其ノ間經濟界ノ變動ニ因ル物價勞銀ノ昂騰ニ伴ヒ事務ノ進捗ニ困難ヲ感シタルコト尠カラズ又之カ從事員ハ主トシテ山間僻遠ノ地ニ入り風土氣候ノ變ヲ冒シ遂ニ不慮ノ災害ニ殫ルル者ヲ生スルニ到リタル等本事業ノ遂行ニ當リテハ多大ノ不便ト辛苦トヲ重ネタルモ幸ニ經費モ増額セラレ又從事員ノ獻身的努力ト關係官署ノ深甚ナル好意トニ依リ豫定ノ行程ヲ遂行シ以テ經濟的ニ發電シ得ヘキ水力地點及水力利用ニ關スル諸般ノ調査資料ヲ蒐集スルコトヲ得タリ

故上ノ如ク本調査ハ全國各河川ノ現況ニ就テハ最信憑スルニ足ル資料ヲ供スルモノナレトモ元來河川流量變化ノ狀況ハ水源地ニ於ケル氣象地勢山林狀態等ノ變化ニ依ル影響ヲ受ケ年々變遷ヲナスコトヲ免レサルヲ以テ將來永ク本調査ノ效果ヲ保持シ絶ヘス水力原簿ノ維持ヲ計ル

タメニハ尙各河川ニ就キ長期間ニ互リテ之カ調査ヲ繼續スルノ必要アルコト論ヲ俟タサル所ナリ

ハ次ノ如シ

第二章 調査機關

第一節 官制及分課

發電水力ニ關スル事務ハ從來電氣局技術課ニ於テ之ヲ處理シ本調査開始ノ準備ハ主トシテ同課ニ於テ行ヒ來タリシカ大正七年六月地方遞信官署官制ヲ改正シ本省及遞信局ニ臨時職員ヲ置クト同時ニ分課並分掌ニ關スル諸規程ノ改正ヲ行ヒタリ即チ本省電氣局ニ水力課ヲ置キテ調査事務ヲ統括シ札幌仙臺東京名古屋大阪熊本ノ各遞信局ニ水力課ヲ置キテ調査ノ事務ヲ分掌シ更ニ其ノ管下ニ十二ノ測量班ヲ配置シテ調査ニ關スル實測作業ニ從事セシメタリ。而シテ既定計畫ニ從ヒ大正十一年九月ヲ以テ測量班ノ實測作業ヲ打切ルト共ニ之ヲ廢止シ同年十一月臨時職員設置制其ノ他分課分掌ニ關スル諸規程ノ改廢ヲナシ諸般ノ殘務ハ本省電氣局水力課ニ於テ之ヲ行フコトトセリ。是等ノ官制及分課ニ關スル諸規程ノ一斑ヲ示セ

臨時職員設置制

大正七年六月八日 勅令第二一六號

員ヲ置ク

電氣工業用發電水力調査ノ爲遞信省及遞信局ニ臨時左ノ職

遞信省

電氣局事務官

專任一人 奏任

技師

專任一人

屬

專任五人

技手

專任十人

遞信局

技師

專任七人

技手

專任五十一人

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地方遞信官署官制拔萃

大正七年六月十日 勅令第二一五號改正

第一條 地方遞信官署ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便小包郵便、郵便爲替郵便貯金簡易生命保險電信及電話ニ關スル事務、水力調査ニ關スル事務並電氣事業及船舶海員ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 遞信局ハ其ノ管轄區域内ニ於ケル郵便小包郵便、郵便爲替郵便貯金簡易生命保險電信及電話ノ管理ニ關スル事務、發電水力調査ニ關スル事務並電氣事業及船舶海員ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ル